

# 介護プロフェッショナルキャリア段位制度の活用で進む介護技術のOJT

介護現場で、その人は実際に何ができて何ができないのか——介護のスキルに関する評価の指標や、またそれを教育していくための手法は、現場によってさまざま工夫されていますが、なかなか標準化されたものがないというのが実情でした。

今、介護現場における実践的スキルの評価・OJT（On the Job Training：職場での実務のなかで行う職員トレーニング）のしくみとして、介護プロフェッショナルキャリア段位制度（以下、介護キャリア段位制度）（平成28年度厚生労働省介護職員資質向上促進事業）を活用する施設が、全国に広がっています。

同制度では介護技術に関して148項目の評価基準をまとめており、介護職員の実践スキルの着実な定着と向上を目指すツールとして期待されています。すでに介護現場で指導と評価を担う評価者（アセッサー）は、全国で約1万2000名養成され、各現場でも合計約5000名の段位認定者が登場しています。

ここでは、アセッサー講習を修了し、現場で介護キャリア段位制度を利用したOJTを実践している管理職の声を紹介します。



医療法人・社会福祉法人  
真誠会（鳥取県米子市）

介護係長 山根 賢一さん

アセッサー 42名  
レベル認定取得者 31名

## OJTに取り組んでみて

職員指導をする際に、経験値からではなく介護キャリア段位制度の評価事項を用いて指導するようになりました。基準の活用で、ケアの指導をする際に根拠を説明できるようになりました。評価を受けた職員は、段位取得者として見られることで、より責任感とプライドをもって仕事をしています。

## OJTを継続させるには

すべての職員に同じ指導ができるよう、マニュアルやキャリアパスに制度の内容を盛り込んでいます。全職員の理解と協力も重要です。

## これから取り組む方へ

介護職員の知識、技術の標準化を図ることができ、段階に応じた指導が可能になります。介護の質の向上は、基本なくしては成し得ません。今ある制度を活用し、介護人材を育成していきましょう。



株式会社ニックス  
南介護サービス事業所部  
（広島県広島市）

所長 久浦 芳子さん

アセッサー 31名  
レベル認定取得者 25名

## OJTに取り組んでみて

現任研修のOJTとして、評価基準を使用しています。技術評価を通じて、職員のモチベーションが上がり、「認定を取りたい」との申し出もあります。

## OJTを継続させるには

各事業所にアセッサーを最低1名は配置し、各管理者が意識統一をして取り組んでいます。組織的に取り組むことが重要です。年間計画のもと、定期的にアセッサー会議を開催し、進捗状況の確認しながら推進しています。

## これから取り組む方へ

介護キャリア段位制度は、個々のもっている技術レベルを証明できる画期的な制度だと思います。キャリア段位制度を取り入れ、優秀な介護職員の確保、定着を図り、介護職員の社会的評価を高めていきましょう。

修了者の声からは、介護キャリア段位制度のOJTツールとしての活用は、介護の質の向上だけではなく、人材育成を通じた「組織づくり」にも役立っていることがわかります。本年度のアセッサー講習申込受付は8月9日（火）までです。

※詳細は84ページの「インフォメーション」でご確認ください